

2004年6月期 本決算説明会

2004年8月30日

株式会社インターネット総合研究所

(注) 当資料は、当社の2004年6月期本決算報告を目的としたもので、投資勧誘を目的として作成したものではありません。この資料のいかなる部分も一切の権利は当社に帰属しており、電子的または機械的方法を問わず、いかなる目的であれ、無断で複製または転送等を行わないようお願い致します。また、本資料には2004年6月期の予想にかかわる記載がありますが、これはあくまでも当社の予想であり、その時々状況や多様な要因により変更を余儀なくされることがあります。なお、変更があった場合でも当社は本資料を改定する義務を負いかねますのでご了承ください。

目次

1. 本決算の概要
2. グループ各社の実績
3. 2005年6月期の計画
4. IRIの中期戦略

1. 本決算の概要

1-1 . 2004年6月期本決算サマリー

(単位:百万円)

		2003年6月期 実績	2004年6月期 予想	2004年6月期 実績	達成率	前年同期比
連結	売上高	11,307	19,359	18,525	95.7%	163.8%
	営業利益	350	243	398	---	---
	経常利益	1,136	441	600	---	---
	当期利益	1,487	1,841	1,812	98.4%	---

		2003年6月期 実績	2004年6月期 予想	2004年6月期 実績	達成率	前年同期比
単体	売上高	2,437	8,104	7,384	91.1%	303.0%
	営業利益	515	300	478	---	---
	経常利益	543	493	636	---	---
	当期利益	2,944	308	39	12.7%	---

予想は7月27日発表予想

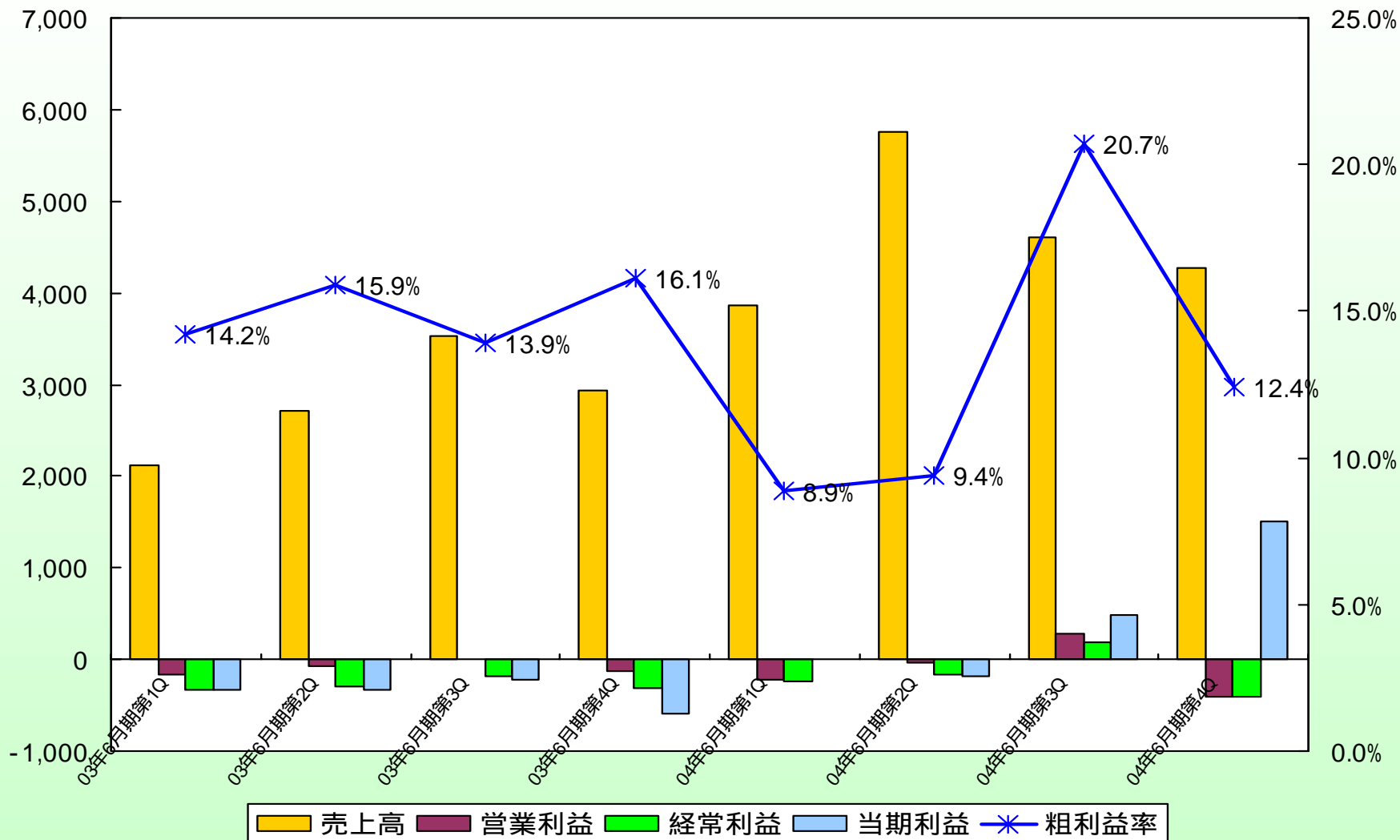
1-2. 連結PL概要

	2003/6月期	2004/6月期				(単位:百万円)	
	通期	1Q	2Q	3Q	4Q	通期	対前年比
売上高	11,307	3,871	5,761	4,614	4,279	18,525	164%
[IPネットワーク事業]	5,008	2,253	4,015	2,711	2,869	11,848	237%
[内訳] IRI単体	2,437	1,360	2,992	1,549	1,235	7,136	293%
BBTower	2,031	616	691	753	947	3,006	148%
BBX	---	149	203	208	411	971	---
IC&O	528	115	118	100	442	774	147%
IRI-CT	329	103	111	125	141	480	146%
シアンス・アール	---	---	13	---	---	13	---
[IPプラットフォーム事業]	6,287	1,615	1,744	1,901	1,466	6,726	107%
[内訳] IRI単体	---	37	57	104	51	247	---
TAU	6,287	1,577	1,689	1,819	1,414	6,499	103%
[その他事業]	11	2	2	2	2	9	79%
[内訳] IRI-USA,Incなど	11	2	2	2	2	9	82%
売上総利益	1,704	346	544	958	534	2,382	140%
販管費	2,054	568	581	685	947	2,781	135%
内、連結調整勘定償却	7	0	0	31	62	93	1292%
営業利益	350	221	36	273	414	398	114%
持分法による投資損益	721	4	6	6	12	28	-4%
経常利益	1,136	232	165	196	399	600	53%
当期純利益	1,487	10	187	482	1,507	1,812	-122%

- ・**売上高**: 単体及び全てのグループ会社が増収に寄与。また今期より連結入りのBBX、買収したVAS事業も増収寄与。
- ・**営業損益**: IRIユビテック、BBTower、IRI-CTが増益したが、BBX、IRI-Comの赤字継続、単体における粗利益率の低下、買収したVAS事業の営業権の計上による販売管理費の増加により、連結で営業赤字が継続。
- ・**経常損益**: 単体の新株発行費1.4億円、組合損失0.7億円の計上。 ・**当期損益**: パソナテック株の売却益26億円の計上。

1-3. 四半期推移

(单位: 百万円)

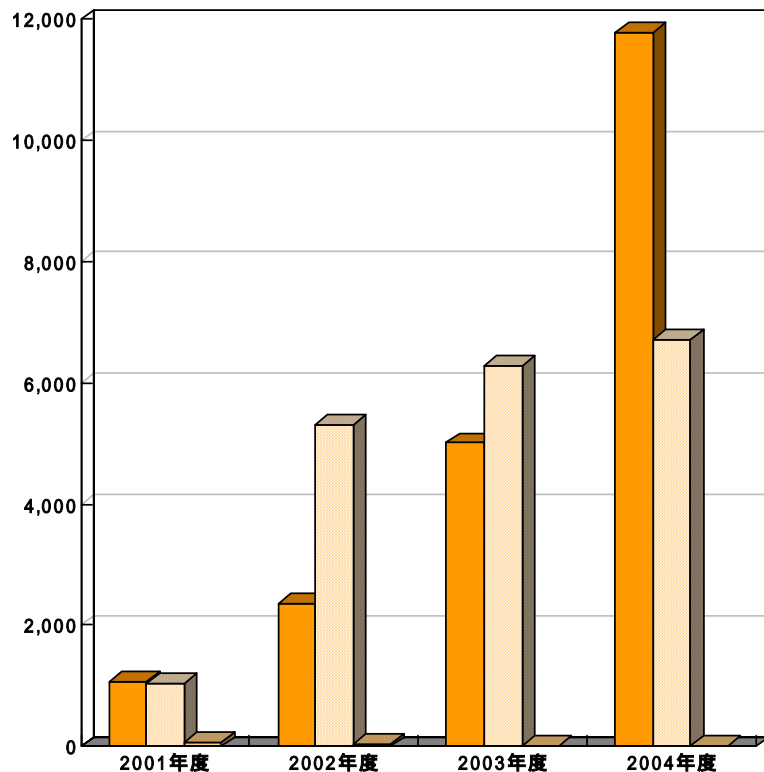


1-4. 事業別売上高

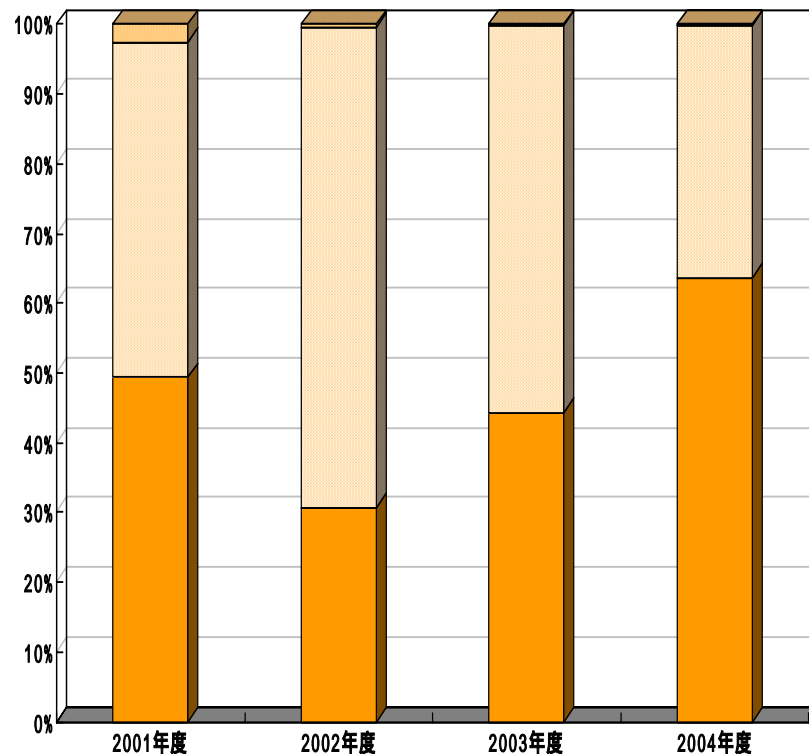
■ IPネットワーク事業 ■ IPプラットフォーム事業 ■ その他

< 事業別売上高推移 >

(単位:百万円)



< 事業別売上高構成比 >



1-5 . 連結BS概要

(単位:百万円)	2003年6月期				2004年6月期				前期末比 増減
	第1四半期	中間期	第3四半期	決算期	第1四半期	中間期	第3四半期	決算期	
流動資産	4,814	4,880	5,243	6,278	6,933	12,229	10,820	10,375	65.3%
うち 現金及び預金	2,014	1,614	1,330	2,256	2,256	5,004	4,047	3,988	76.8%
うち 受取手形・売掛金	1,737	2,098	2,865	2,843	3,513	6,227	5,654	5,555	95.4%
固定資産	4,924	4,691	4,577	4,075	4,287	4,342	5,981	6,623	62.5%
うち 有形固定資産	2,111	2,103	2,109	2,081	2,250	2,243	2,295	2,311	11.1%
うち 無形固定資産	34	32	54	48	50	194	2,000	1,787	3622.9%
うち 投資その他資産	2,779	2,556	2,413	1,945	1,986	1,904	1,685	2,524	29.8%
資産合計	9,740	9,571	9,820	10,354	11,220	16,572	16,802	16,999	64.2%
流動負債	2,123	2,481	3,503	4,247	4,773	7,785	6,943	5,541	30.5%
うち 支払手形及び買掛金	1,610	1,881	2,396	2,511	2,801	5,676	5,027	4,226	68.3%
うち 短期借入金	450	400	400	740	990	1,040	600	100	-86.5%
固定負債	961	814	740	724	749	633	565	607	-16.2%
うち 退職給付引当金	82	86	88	90	94	97	97	103	14.4%
うち 長期未払金	877	727	650	573	626	534	444	255	-55.5%
負債合計	3,084	3,295	4,243	4,972	5,523	8,419	7,509	6,148	23.7%
少数株主持分	483	466	447	793	1,104	924	993	1,003	26.5%
資本金	2,191	2,202	2,202	2,226	2,226	3,640	3,843	3,855	73.2%
資本合計	5,687	5,350	5,129	4,587	4,592	7,229	8,298	9,847	114.7%
負債・少数株主持分および資本合計	9,740	9,111	9,820	10,354	11,220	16,572	16,802	16,999	64.2%

・**流動資産の増加**: 現金及び預金の増加は、増資・株式売却等。売掛金は売上増加。

・**固定資産の増加**: 平成電電からのVAS事業買収による営業権計上、翼システムからのAS社買収による投資有価証券。

・**流動負債の増加**: 支払手形・買掛金は、売上増加に伴う仕入増加。短期借入金は減少(IRIユビテック及びBBTower)。

・**少数株主持分の増加**: BBTowerの第三者割当増資に伴う少数株主比率の上昇。

ファイバーテック社と株式交換による100%子会社化

- ・株式交換(簡易株式交換)により、ファイバーテック株式会社(事業内容:医療用内視鏡製造販売、医療用ソフトウェアの開発等)を子会社化
- ・株式交換期日・10月1日(予定)、株式交換比率・1(IRI):0.492(ファイバーテック)

B / Sの改善により株主還元を積極的に取り組む

- ・2004年6月末をもって、1:2の株式分割を実施。(新株券交付日:2004年8月20日)

IRI-Comが第三者割当増資実施、IRIが全株式引受 (2004年3月)

- ・グループ内の連携を深めグループの競争優位性を強化。
- ・発行総額:1億8,005万円、増資後の資本金:3億9,002万5千円、増資後のIRIの持株比率:66.7%
(2004年7月1日にIRIが行った会社分割による新株発行後[75,010株]の持株比率:94.3%)

IRI-CTが第三者割当増資実施、住友商事(2004年5月)、IRI(2004年9月)が全株式引受

- ・住友商事との強力な提携関係を維持し、事業の拡大、海外へのさらなる展開を目指す。
- ・発行総額:4,000万円、増資後の資本金:2億1,000万円、増資後の持株比率:住友商事 9.5%
- ・ブロードバンドコンテンツおよび自動車IT業界におけるマーケットリーダーの地位を不動のものとし、さらに業容を拡大。
- ・発行総額:1億6,000万円、増資後の資本金:2億9,000万円、増資後のIRIの持株比率:62.1%

IRIコピテックが第三者割当増資、IRIが全株式引受 (2004年6月)

- ・新たなビジネス展開の基盤を固めるための研究開発に対する積極的な投資を行う。
- ・発行総額:約4億円、増資後の資本金:6億4百万円、発行後のIRIの持株比率:96.0%

2. グループ各社の実績

2-1. 連結業績のグループ会社別内訳

(単位:百万円)

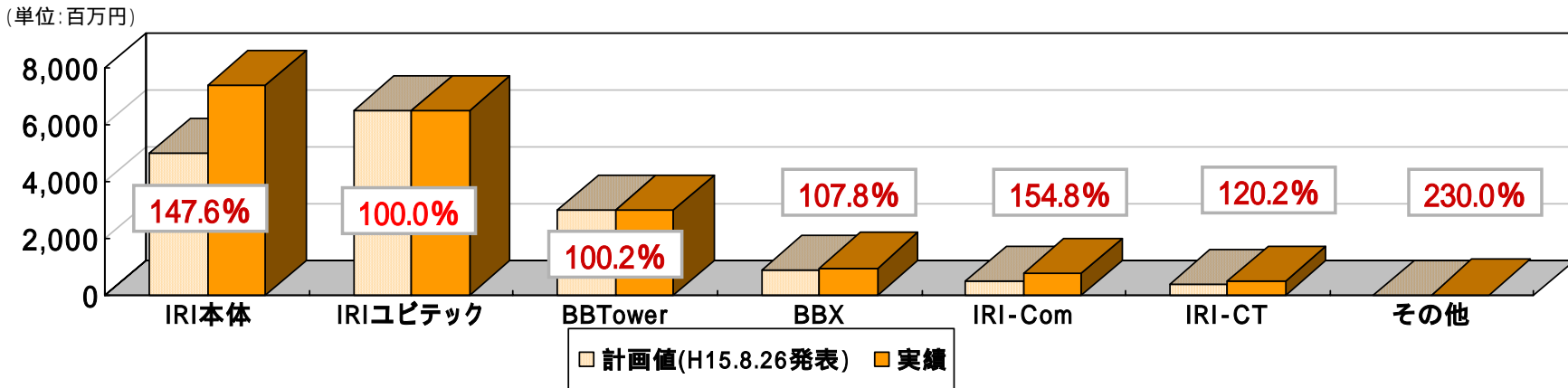
	売上高			営業利益		経常利益		当期利益	
	通期予想	2004年6月期 実績	達成率	通期予想	2004年6月期 実績	通期予想	2004年6月期 実績	通期予想	2004年6月期 実績
IRI単体	8,104	7,384	91%	300	478	493	636	308	39
TAU (IRIユビテック 1)	6,500	6,499	100%	440	429	438	426	324	299
BBTower	3,005	3,006	100%	297	294	256	251	261	303
BBX (2)	971	971	100%	459	458	446	446	455	455
IRI-Com (2、 3)	775	774	100%	151	151	154	154	185	185
IRI-CT	481	480	100%	12	12	11	11	11	10
その他	23	22	96%	22	22	23	23	23	23
合計	19,859	19,136	96%	183	374	411	571	241	12
【連結修正】	19,359	18,525	96%	-243	398	441	600	1841	1,812

通期予想は7月27日発表予想との比較

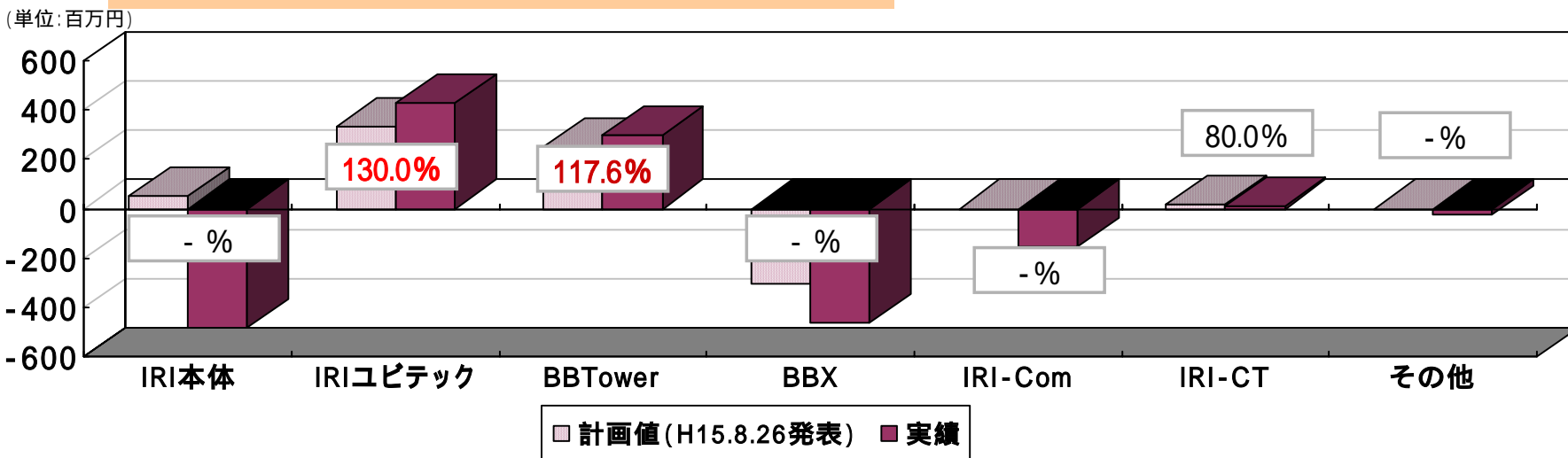
1. TAU(タウ技研)は、7月1日をもってIRIユビテックに社名変更いたしました。
2. BBXとIRI-Comの2004年6月期実績は決算期の変更により15ヶ月決算を計上しております。
3. IRI-Com (IRIコミュニケーションズ)は、2004年4月1日にIC&O (インターネットシーアンドオー) から社名変更いたしました。

2-2. グループ会社別計画達成率 (対当初計画: 昨年8/26発表)

会社別売上高達成率 対当初計画比



会社別営業利益達成率 対当初計画比

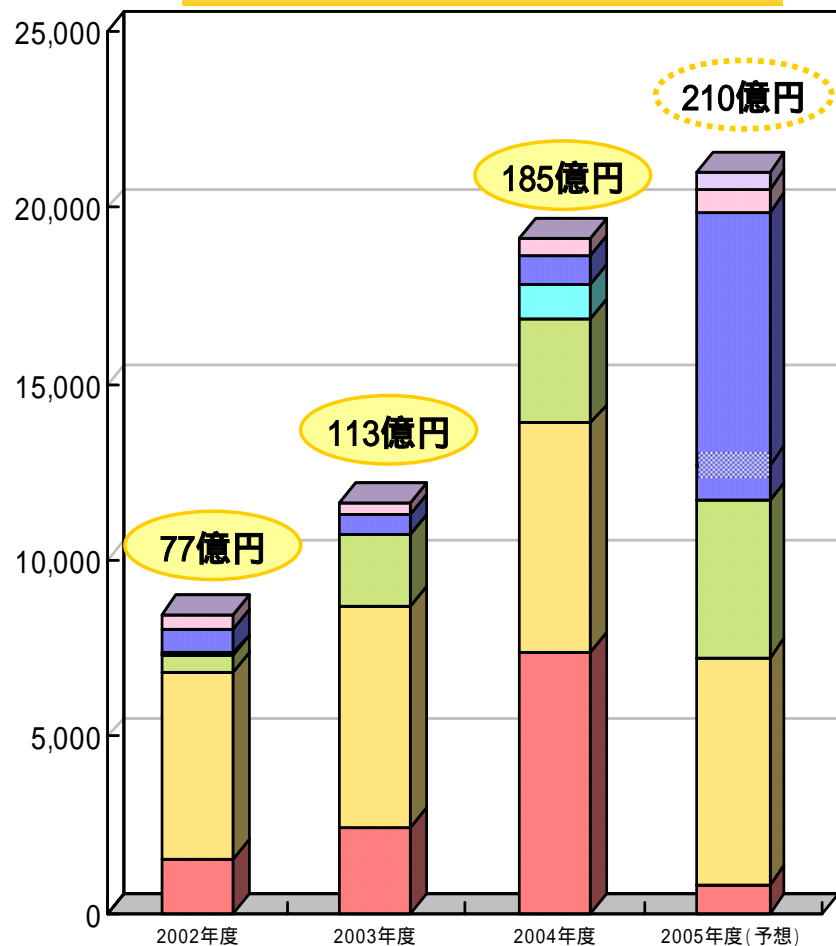


2-3. グループ会社別売上高・営業利益推移

■ IRI本体
 ■ IRIユビテック
 ■ BBTower
 ■ BBX
 ■ IRI-Com
 ■ IRI-CT
 ■ その他

(単位:百万円)

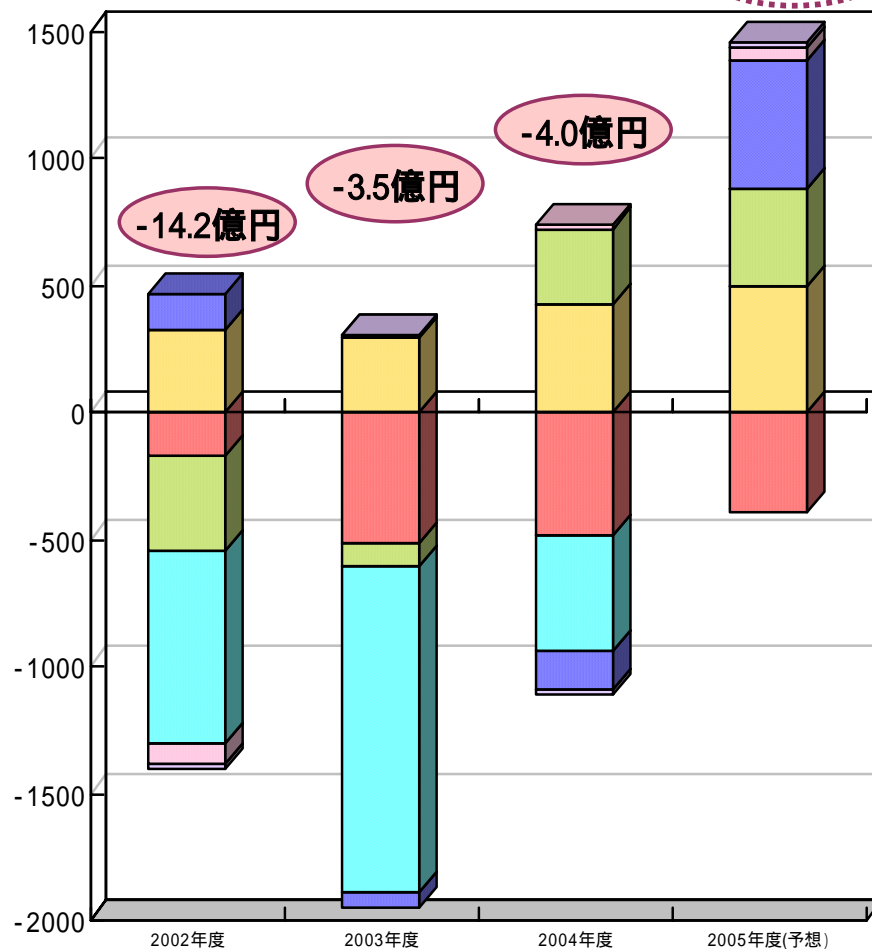
< 会社別売上高推移 >



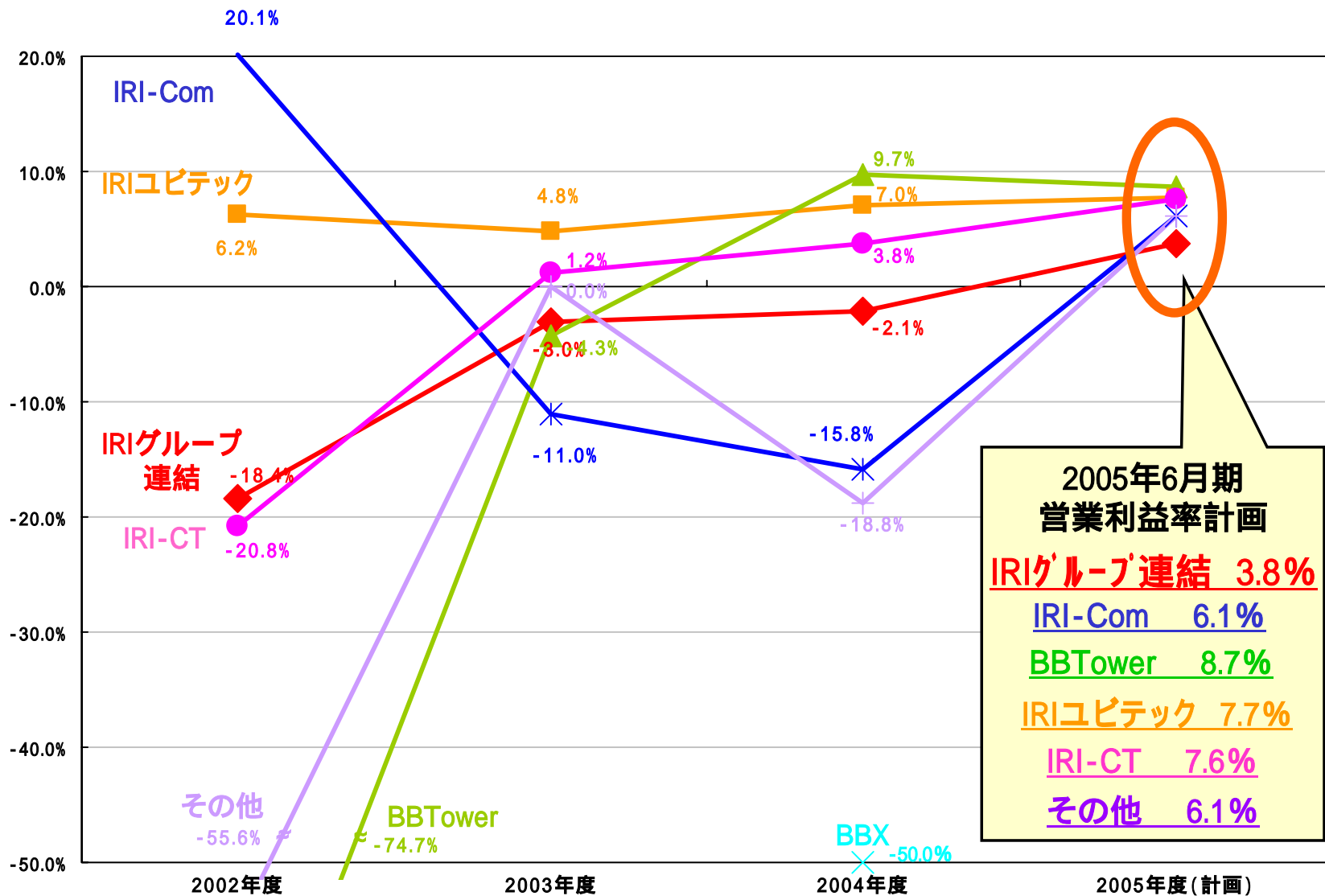
(単位:百万円)

< 会社別営業利益推移 >

+8億円



2-4. グループ会社別営業利益率



2-5 . IRI (本体): グループ再編

㈱インターネット総合研究所

IRI
Ubilabs Innovations

2004年6月期実績	2005年6月期予想
売上: 7,384百万円	売上: 780百万円
営業利益: 478百万円	営業利益: 390百万円

グループ再編により、コア事業を担う子会社に経営資源を集中



IRI本体は技術革新に基づくビジネスモデルの確立を目指す

会社分割によるIPネットワーク事業のIRI Comへの事業承継

IRI-Comにグループのリソースを集中。IRI-Com(旧 IC & O)が従来行なっていた『マネジメント・サービス(MSP)』事業に加え、新たに『アドバンスト・ネットワーク・インテグレーション(AdNI)事業』、『ヴァーチャル・アクセス・サービス(VAS)事業』を展開。総合的なIPネットワークの設計・コンサルティング・機器販売・通信サービスの提供を可能とする。

分割期日: 2004年7月1日

会社分割によるユビキタス研究所のIRIユビテック(旧 TAU技研)への事業承継

次世代ユビキタス製品の研究・開発をIRIユビテックに集約。設計・製造まで一貫してユビテックが手がけることにより一層の事業強化を図る。

分割期日: 2004年10月1日(予定)

BBXとIRI - Comの合併

IPネットワーク事業分野の経営資源をさらに集中。両社の強みを相互に生かし、シナジー効果による競争力の向上により、成長を加速させる。

合併期日: 2004年10月1日(予定)

最先端医療技術分野へ進出、ファイバーテック株式会社と株式交換

IRI上場以来初の手法である「株式交換」により、ファイバーテック株式会社 (FT) の子会社化を決定。

(株式交換期日: 10月1日[予定])

FTを中核企業とし、医療機器および医療情報システム分野の優れた技術を有する企業をM&A等によりグループ化することで業界再編を行い、更なる成長・発展を図る。

<ファイバーテック株式会社 >

事業内容	医療用内視鏡の製造・販売、医療機器の輸入販売、医療機器・医療器具の販売、医療用コンピュータの開発等
資本金	2億3,600万円
設立年月	1998年10月
代表者	代表取締役 三池信也



救急医療に威力を発揮するビデオ喉頭鏡

自動車アフターマーケット事業に本格参入、翼システム株式会社・株式会社オートサーバーと 業務提携に基本合意

(株)オートサーバーへの資本参加を皮切りに、翼システムグループとのインターネット関連事業の連携を強化。

<翼システム株式会社 >

事業内容	・カーアフター業界向けネットワークビジネス ・「カーコンビニ倶楽部」による店舗開発、運営、商品開発、経営技術指導他
設立年月日	1983年2月
資本金	1億円
代表者	代表取締役社長 尾上正志

年間400万台を超える取引がある中古車流通市場において、ネットオークションサイトの企画・構築・運用を手がける。

<株式会社オートサーバー >

事業内容	・インターネットなどを利用した国内・国際間の中古車流通業、自動車に関するインターネット売買事業および情報提供サービスなど
設立年月日	1997年6月
資本金	4億2,476万円
代表者	代表取締役社長 萩原外志仁

2004年6月期実績 売上： 774百万円

営業利益： 151百万円

2005年6月期 BBXと合併

IRI
COMMUNICATIONS

5社協業による自動販売機ネットワーク事業提携

～ 自動販売機ネットワークプロジェクトのさらなる事業推進 ～

平成電電(株)、ドリームテクノロジーズ(株)、(株)ホーキング、(株)キューウエーブの4社と「次世代無線LAN技術による新事業」協業を発表。独自仕様の無線LAN技術を利用した広域無線LAN事業と、そのインフラとして飲料自販機をインターネットに接続可能な無線基地局とする新規事業について、各社の強みを活かした事業展開を図る。

9月から名古屋・長野・新潟で実証実験開始。各地域で無線LAN接続可能な自販機100台を設置予定。



5社による共同記者会見
(2004年8月)



営業状況～順調に顧客拡大

大手家電メーカーとIPv6ネットワーク設計、構築についての大型案件を仮契約。

大手ISPにおいてVASの大型案件受注。(月額 2,500万円超)

大手証券会社と協業でPDP + リモコンによる新証券コミュニケーションシステムの共同開発。

2004年6月期実績	売上： 3,006百万円	営業利益： 294百万円
2005年6月期予想	売上： 4,400百万円	営業利益： 383百万円



世界最大規模のトラフィック発信需要に伴いGbps対応のサービスを開始

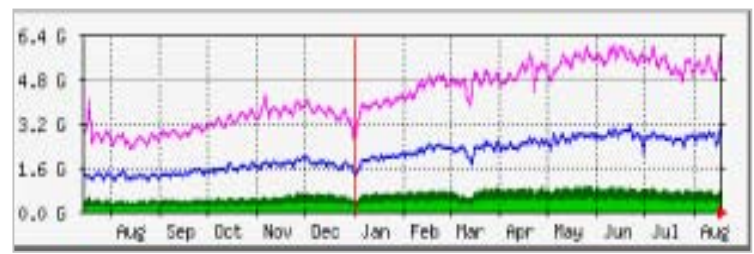
データセンター稼働率：

2003/6末60% (増床前)

2004/6末67% (増床後)

予約ラック等を含んだ稼働率から売り上げベースでの稼働率へ算出方法変更

トラフィック量：2004/8現在、6Gbps →



付加価値型iDC事業の開始

ネットシネマ事業

- 2003/10～「ラヴスト！」4本立て、「NO NAME」、「うさぎのもちつき2」、「プチ美人とお金」配信、(2004/8現在「食い逃げカップル」、「ベストフレンド」、「Dreamer's High!」配信中)
- 2004/2 ネットシネマ本格展開を目的とした株式会社ブロードバンド・ピクチャーズ設立
- 2004/4 NHKエンタープライズ21の協力によりドキュメンタリー作品の制作に進出
- 2004/5 アンパサンド・ブロードバンドと共同でブロードバンドシネマ事業を開始
(BIGLOBE、DION、hi-ho、ODNのポータルサイトで集客)
- 2005/6期 エンターテインメント・ドキュメンタリー作品を中心に30本を企画制作予定



2004年6月期実績 売上： 971百万円 営業利益： 458百万円

2005年6月期予想 売上： 8,200百万円 営業利益： 500百万円



ブロードバンド・ネットワーク事業に経営資源を集中

インターネット・エクスチェンジ (IX) サービス『BEX』の顧客数の着実な増加 (2004年8月現在 約60社が接続) や、企業向けIP電話サービス『BEX Phone for Enterprise』販売パートナーとの営業展開によるユーザ獲得等により、2004年8月に単月キャッシュポジティブ化を達成。

フルランジット保険型サービスの提供や韓国系大手オンラインゲーム配信事業者へのサービス提供を開始。映像伝送 / VoDサービスへも展開。

IRI-Comとの合併による競争力の強化

IPネットワーク事業分野における当社グループの経営資源を集中。ブロードバンド通信サービスやIP電話サービス等のBBXが開発した商品を、IRI-ComがISP事業者等への営業力を生かして拡販していく。

合併日程 (BBXおよびIRI-Com)

合併契約書承認取締役会：8月9日、合併契約書調印：8月9日、合併契約書承認株主総会：8月24日 (予定)、合併期日：10月1日 (予定)

合併後の状況

商号：株式会社IRIコミュニケーションズ、本店所在地：東京都新宿区西新宿一丁目26番2号、代表者：代表取締役社長 持塚 朗、資本金：5億円

2004年6月期実績 売上：480百万円 営業利益：12百万円

2005年6月期予測 売上：660百万円 営業利益：50百万円



RBBTODAY、Responseのユーザー数増加、内容の充実



月間1400万PV/ユニークユーザー110万人
光サービスに特化したサイト・イン・サイト
「光 hikari」を開始。光サービスだけの情報を
提供。

オンラインゲームに特化したサイト「Slash
Games」、オンラインゲームユーザーの総合
コミュニティサイト「PaO Slash Games」スタート。
Yahoo!Japanにブロードバンドコンテンツと機器
情報の提供を開始。



月間2,000万PV/ユニークユーザー170万人
車内ケータイ利用アンケートを実施・分析。
マスコミ等も注目するデータを提供。

メディア事業が成長を牽引、他事業が順調に拡大

メディア事業

「RBB TODAY」「レスポンス」の広告売上、ニュー
ス配信等での売上増加。7月には価格.comとRBB
TODAYの家電サイトが提携。新たな時代の情報
サイトの構築を目指す。

システム開発・コンサル

数社の取引先から長期にわたるコンサル案件を
受注するほか、大手携帯電話キャリアからもコン
サル業務を受注。

コンテンツサービス事業

全国ホットスポット検索「dokoyo」の大手通信事業
社へのデータ提供を行う。また、携帯向けコンテ
ンツ「e燃費」を大手石油会社・大手自動車メーカー
へシステムOEMやデータ提供を行うほか、i-mode
で有料課金を開始。

プラットフォーム事業

育成シミュレーションゲーム「卒業」の権利を取
得。さらなる大型作品の権利取得を計画中。

2004年6月期実績 売上：6,499百万円 営業利益： 429百万円

2005年6月期予測 売上：6,500百万円 営業利益： 500百万円

UBITEQ
UBIQUITOUS TECHNOLOGY

ユビキタス時代の先駆者を目指し社名変更、タウ技研から「IRIユビテック」へ

「ユビキタス」と「テクノロジー」という2つのキーワードを融合して生まれた造語「ユビテック」に、親会社(IRI)の持つ「ネットワーク業界における中立性と信頼性」を付加するという意図で、「IRI」という冠をつける。

組み込みセンシング技術を生かした「自社ブランド製品開発」

< ネットワーク対応 LCD情報端末ディスプレイ >



全国に設置されている自動端末(自動販売機、ATM端末、情報端末等)を広告インフラとして利用することで付加価値サービスの提供が可能に！

従来のLEDサインボードと比較して 4つのアドバンテージ！

高精細(8色表示)	ネットワーク対応
拡張性	低コスト

IRIユビテックとHUNETの独自技術の融合による
新たなソリューションが誕生！

LEDからLCDへ

フォーラム、コンソーシアム設立・運営

ユビキタス社会の実現に向け、様々な企業とIT分野に関するコンソーシアムやフォーラムを設立し、市場の発展に資する活動を推進。

IPv6・センサネットワークワーキングコンソーシアム



IPv6及びセンサネットワークの技術を活用し、ビル・オートメーション(BA)、ホームオートメーション(HA)、その他の分野における新しい市場を形成することを目的とし、平成15年8月に設立。URL:<http://www.ipv6sensor.net/>

月例会、WG、海外調査等により、新しいビジネスの実現に向け、活動を実施中。本年9月には、BA-WG(本年3月設立)に引き続き、HA-WGを設立予定。

運営委員企業:IRI、NTTコミュニケーションズ(株)、(株)日建設計、日本電気(株)、(株)日立製作所、富士通(株)、松下電器産業(株)、松下電工(株)。平成16年8月時点の会員企業数は39社。

enNetforum(エンタープライズ・コラボレーション・ネットワーク・フォーラム)



高度なネットワーク技術を活用し、企業と企業、企業とコラボレーション、さらには、コラボレーション同士を連携した次世代のコラボレーション「超コラボレーション」を実現するために、技術やノウハウの検討、蓄積及び普及を図ることを目的として、平成15年10月に設立。URL:<http://www.ennetforum.org/>

分科会としての研究活動、一般を対象としたセミナー開催等を実施。6月30日～7月2日には、SSL VPNリモートアクセス分科会として、N+Iに出展。

運営委員企業:IRI、キヤノン(株)、日本電気(株)、(株)ネットマークス、松下電工(株)。分科会活動には、約20社が参加。

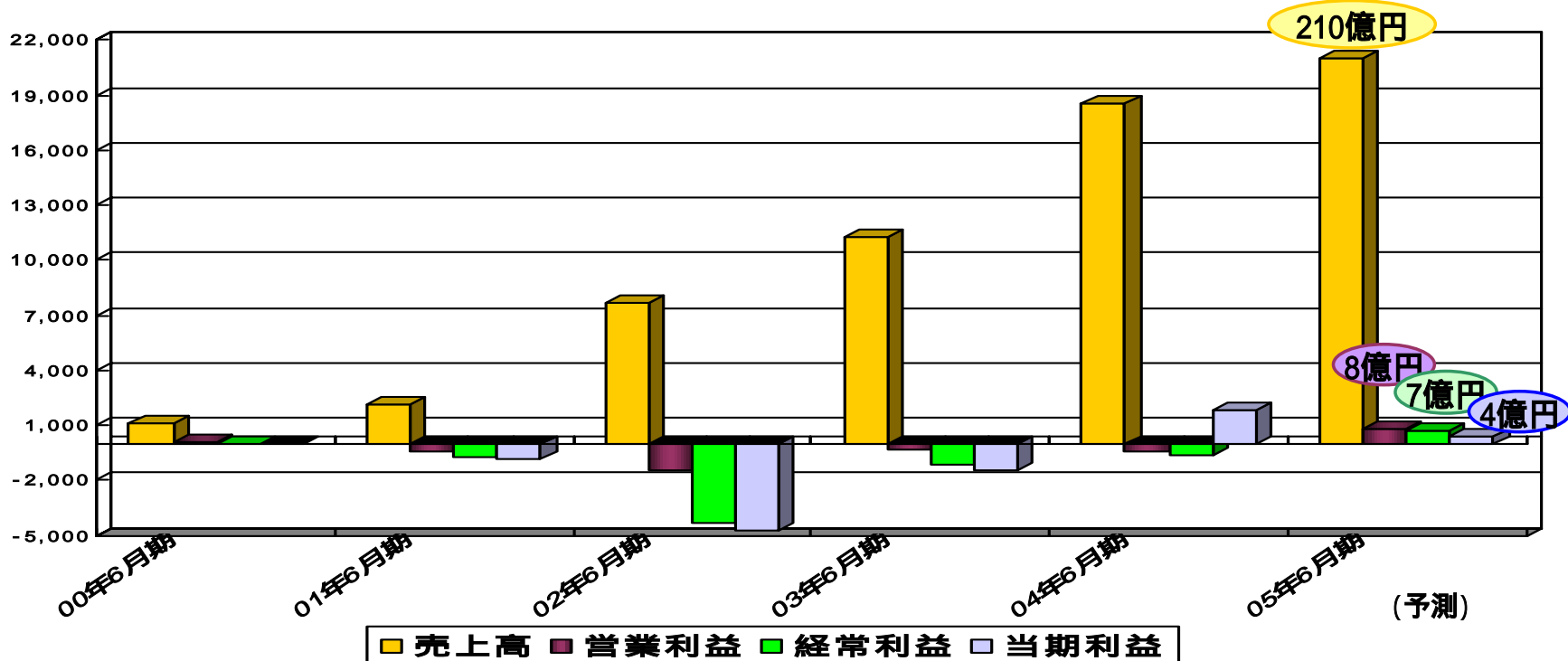
3 . 2005年6月期の計画

3-1.2005年6月期 損益計画

(単位:百万円)

		通期計画	前期実績	前期比
連結	売上高	21,000	18,525	113.4%
	営業利益	800	398	---
	経常利益	700	600	---
	当期利益	400	1,812	22.1%

		通期計画	前期実績	前期比
単体	売上高	780	7,384	10.6%
	営業利益	390	479	---
	経常利益	390	636	---
	当期利益	390	39	---



3-2. 連結業績の会社別内訳

(単位:百万円)

	売上高			営業利益		経常利益		当期利益	
	2004年6月期 実績	2005年6月期 計画	前期比	2004年6月期 実績	2005年6月期 計画	2004年6月期 実績	2005年6月期 計画	2004年6月期 実績	2005年6月期 計画
IRI単体	7,384	780	-89.4%	478	390	636	390	39	390
IRIユビテック	6,499	6,500	0.0%	429	500	426	500	299	300
BBTower	3,006	4,400	46.4%	294	383	251	338	303	328
BBX	971			458		446		455	
IRI-Com	775	8,200	369.6%	151	500	154	500	185	450
IRI-CT	481	660	37.2%	12	50	11	49	10	49
その他	23	460	1900.0%	22	28	23	27	23	27
合計	19,139	21,000	9.7%	374	1,071	571	1,024	12	764
【連結修正】	18,525	21,000	13.4%	398	800	600	700	1,812	401

() 「その他」は、04/06期はIRI-USAとシアンスアール、05/06期はファイバーテック(下半期分をPL連結として取り込んだ)

3-3. IRIグループの今期業績展望

先行投資期から利益創出期へ
今期はグループ会社の完全黒字化による
利益改善を計画する

売上65億円 営業利益5億円



デジタル家電需要の追い風と、センシング技術を活用した事業領域の拡大で、映像・画像事業を軸にさらなる拡大を図る。大手企業が主要顧客である点が強み。

売上82億円 営業利益5億円



IRI本体のネットワーク事業を承継。VAS事業の通年での業績寄与と大手新規顧客増による大幅な売上、利益増。のれん代償却費負担の軽減による月次利益の改善。BBXは、合併による内製化でコスト圧縮、事業シナジーによる黒字転換を見込む。

IRIグループ各社営業利益推移

売上44億円 営業利益3.8億円

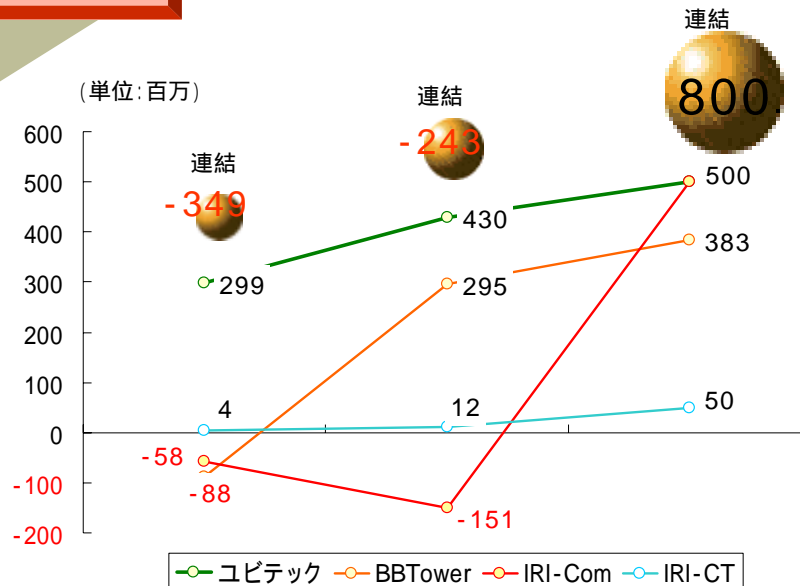


安定軌道のデータセンタ事業と成長を牽引するBB配信事業の両輪でさらなる利益成長を目論む。日本最大規模のiDCとして高い信頼性によるブランド力が高付加価値の源泉。

売上6.6億円 営業利益0.5億円



メディアとしての地位確立。04/6期から黒字転換を達成し、05/6期は売上増加による利益拡大を見込む



3-4 . IRIグループ連結利益改善の根拠

利益改善の最大の要因はIPネットワーク事業の集約による利益創出体質への転換

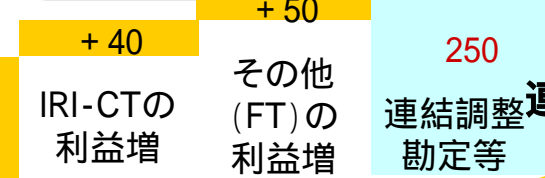
IRI-Comの利益改善要因

VAS事業の利益貢献：05/6期は売上は通年で寄与するがコストは04/6期と同水準に留まり黒字化、高収益事業となる（営業権償却負担は4億円程度）。

合併したBBXの黒字化：設備投資型ビジネスであり今期は損益分岐を超えることで売上増 = 利益増が見込める

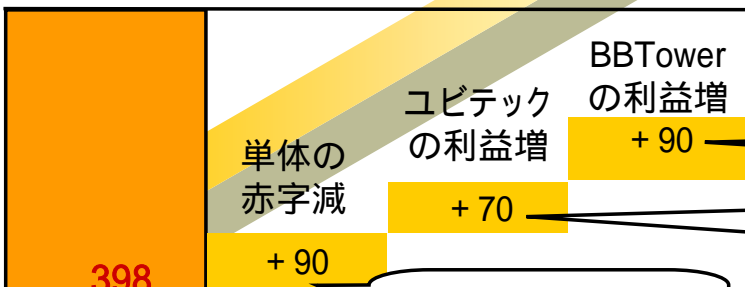
NI・MSP事業の利益貢献：低収益の機器販売から高収益案件に注力することで利益体質への転換を図る

FT社連結組
入れ(半期)



連結営業損益
今期計画
+ 800

連結利益
12億円の改善



連結営業損益
04/6期実績

要因の数字は04/6期実績を除き概数となっております。

IDCは損益分岐を超え安定利益を創出

PM体制の強化
製造コストコントロールで収益改善

事業分割によるコスト削減効果

4 . IRIの中期事業戦略



【Everything on IP! & IP on Everything !】

20世紀の半導体技術のように、21世紀の産業創出のもととなる技術革新は
IP (Internet Protocol) 技術である

あらゆる情報、文化、社会活動をIPネットワーク上に実現していく！

4-2. IRIの歩みと方向性 ~さらなる成長へ

常に先の時代を見据え、IP技術によって進化する新ネットワーク事業成長分野を創出

【黎明期】創業

学術分野から
産業へインター
ネット技術・ノ
ウハウを移転

【種蒔き・育成期】IRIグループの構築

通信ネットワーク産業をIP技術で再構築

(2004) IPネットワーク事業の中核
(VAS、ADNI、MSP事業)

(2003) グループ研究開発機構
(ユビキタス環境の研究)

(2002) IPプラットフォーム事業の中核
ユビキタス端末開発

(2001) 技術者派遣、オンサイト運用

(2001) L3IX事業
広帯域シームレスネットワーク

(2000) IPネットワーク事業中核
ブロードバンドに特化したADC

(1999) RBBTodayによるWebメディア展開

(1998) 中立のストリーミング配信

(1997) 国内最大級のIX

(1996) 創業



売上高
11億円

【新たな種蒔きへ】



【収穫・成長期】グループ企業の自立成長



1995年

2000年

2005年

2010年

本社機能とグループ会社の役割を明確化した
 『連邦的独立経営』によりグループ企業価値の
 増大を目指す



各グループ子会社は自己資金調達力を強化
 事業環境に即した効果的経営と迅速な意志決定を推進し事業強化を図る

4-4.事業戦略 : IPネットワーク事業

WEBサーバー
運用支援サービス

トラフィック交換
支援サービス

無限の
可能性

新たなIPネットワークシステムの
構築運用支援サービス



第2種交換



レイヤ2交換

第1種交換

コンテンツ
事業者

ISP
事業者

Webサービス
事業者

キャリア・
CATV

…その他ASP事業者等

既存顧客ドメイン

コネクタスIPネットワークを軸に
産業構造の変革と新ビジネスモデルの構築

自動車産業分野

超高速ブロードバンドの必要性
車載システムの普及に伴う波及効果大。



情報家電分野

家庭内ネットワークへの、外部
からの安全な接続を可能とし、
自在なコントロールを実現。



金融・証券分野

自宅での決済処理はもとより、
個々の店舗においても顧客相談
がTVモニターによる遠隔対応で実現。



医療分野

医療機関からの検査データや
診断画像等の膨大な情報をネット
ワーク経由で病院間、病院と製薬会社間で
共有が可能になりネットホスピタルが進展。



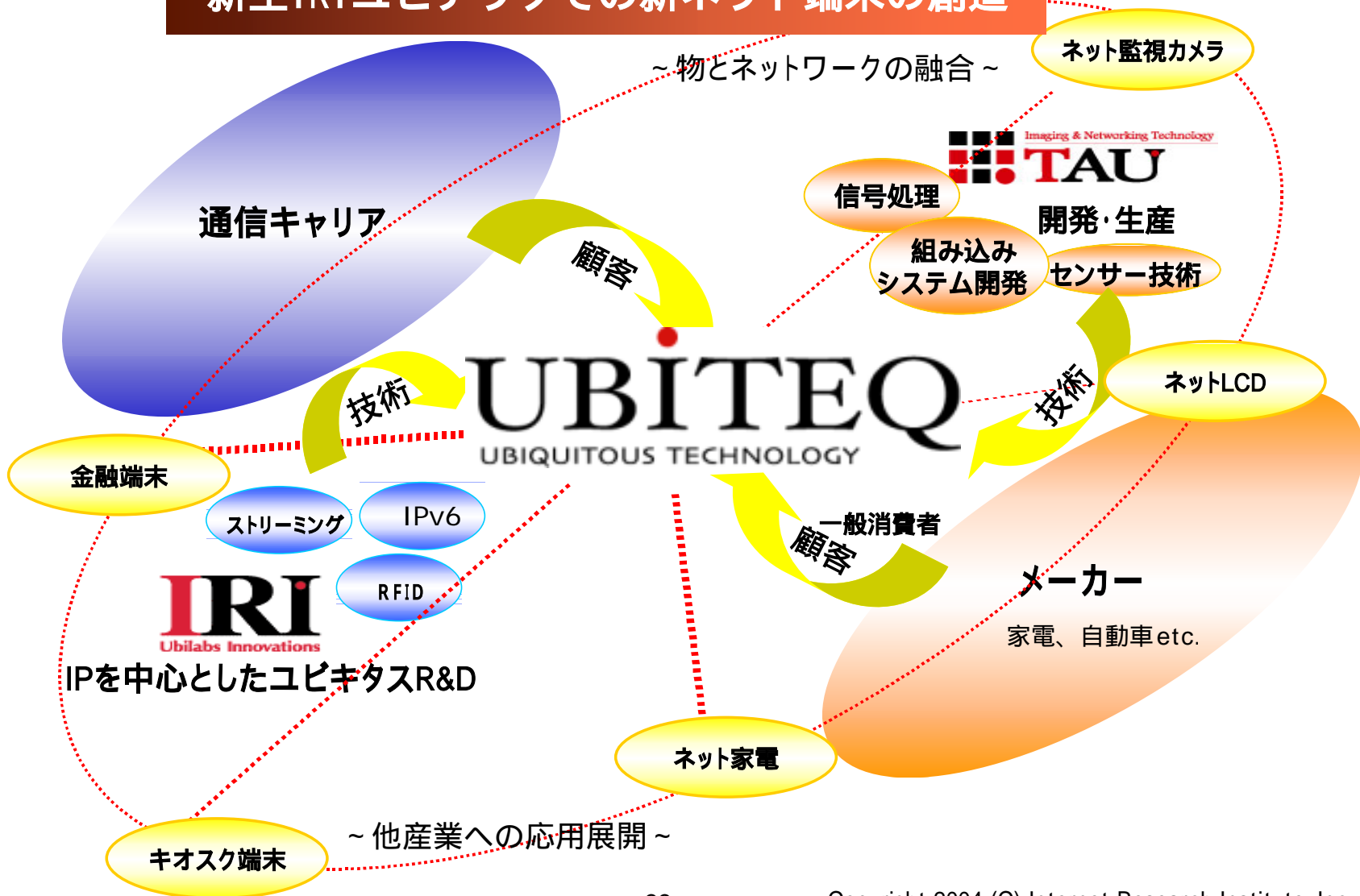
セキュリティ分野、ロボット分野、環境分野等

ファシリティ

ネットワーク

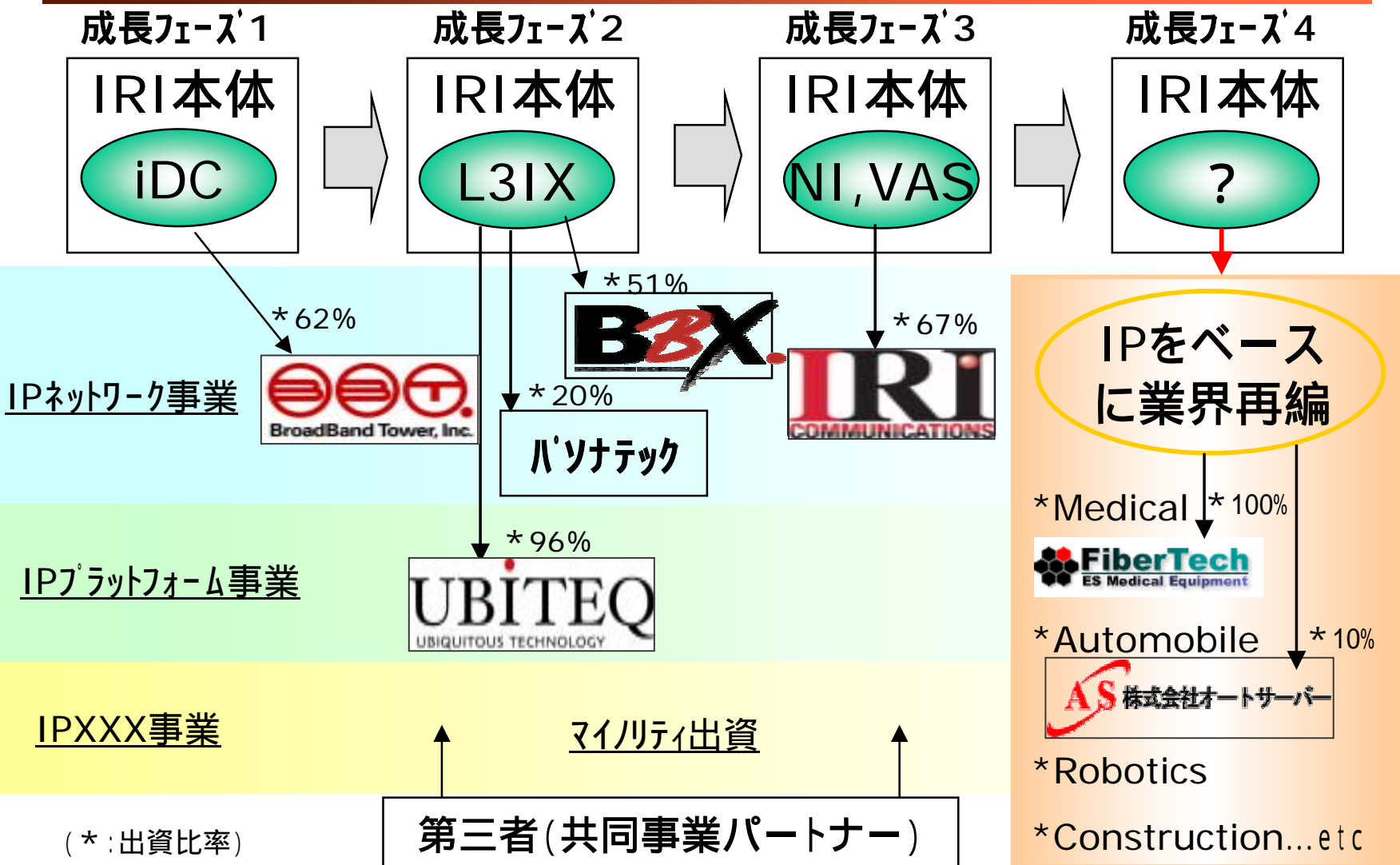
システム

新生IRIユビテックでの新ネット端末の創造



4-6.第3の事業の柱の創造

M&Aも視野に入れた展開



ファイバーテックの中期ビジョン

2つの事業の柱を構築 M&D(Medical & Digital)企業

低侵襲・非侵襲の 医療機器事業

大学・研究機関との連帯

三大成人病分野
救急救命分野
産婦人科分野
小児科分野

医療デジタル ネットワーク事業

国・地方自治体との連帯

医療機関ネットワーク
医療機器サポート分野
医療画像処理分野
医療データセンター

**新たなマーケット
の創造**
(プレホスピタル構想)

IT・IP技術の導入

2009年度までに100億円の売上規模を目指す